



～お葬儀屋さんのひとりごと～

戒名って何？（２）

※ ここでは戒名を法名・法号を含む一般名詞として使用します。

その４ 戒名（法名）

戒名の構成は、宗派、故人の生前の地位、布施などにより様々なパターンがあります。戒名は本来二文字で表現されていて、身分の高い低いに関係なく、仏の世界が平等である事をあらわしています。但し、実際に位牌に書かれる戒名には、院号、道号、位号などが上下に付随しているのが普通で、その全てを戒名として考えられています。



位号などの部分にはこんな種類があります。

信士、信女・・・とっても信仰に厚かった人と言う意味のとても良い位号です。

居士、大姉・・・居士と言うのは、とっても仏教に貢献した人、大姉と言うのはとっても賢くて仏教を守った人と言う意味のとても良い位号です。

院号・・・・・・お寺（院）を一軒建てるほどに、仏教に貢献した人と言う意味のとても良い位号です。

院殿号・・・・・・とても立派なお寺（観光名所級）を建てるほどに、仏教に貢献した人と言う意味のとても良い位号です。

だから、お寺さんに居士を付けてください、院を付けてください、と頼むのは「とっても仏教に貢献した人」として扱ってください、「お寺を一軒建てた人」くらいに扱ってください、と言うのと同じことなんです。

だからお坊さんも「う～ん、じゃあ残された人が亡くなった人の代わりに、たくさん仏教に励んでください。そうしたら付けましょう。」と言うことで、たくさん布施と言う修行をする。

いままで特にお寺に対して特別な貢献をしていないで、戒名をいただく場合はその時はそれなりにということになります。

その５ じゃあ戒名はお金で買えるの？

こういう風に話すと、商品売買みたいに金額で仏教が買えるような気がしてしまいがちですが、そうではないのです。現にお金では院をつけられないというお寺もあります。

あくまで仏道修行は貢献した人に対して付けられるもので、生前やっていなかった分を金品でのお布施という修行を後からする事を認めているか、いないかです。

だから、お寺の前を元気な時によく掃除に来ていたおばあちゃんが亡くなった時には「お寺の為にあれだけやってくれたおばあちゃんなんだから」ということで、だまって院号を付けてくれたという話もあります。

その６ それで相場は？

よくお布施の額を尋ねられるのですが、相場は有って、無いようなものなんですね。結局お寺の考え方と自分の考え方次第というのが結論でしょうか。

公式見解では「戒名は金銭で売買するものではない」というのが、各教団の所属する連合会からでていますね。

自分で書いていても頭が混乱するくらいなので、こんな説明で皆さんにお分かりいただけるかどうか少し心配ですが、分かりにくかったら許してください。